資料４

平成２５年度
ＩＣＴ－ＷＧ報告書
（案）

平成２６年３月１４日

ＩＣＴ－ＷＧ事務局

目次

1. はじめに
   1. ＩＣＴ－ＷＧの設置と検討内容
   2. ＩＣＴ－ＷＧのねらい
   3. ＩＣＴ－ＷＧの進め方

2. 今後さらに取り組むべき課題について
   1. 検討方針
   2. 構成員からの提案
   3. 第２回重要課題専門調査会への提案
   4. 意見募集
   5. 重要課題専門調査会ワークショップへの提案
   6. とりまとめ（重要課題専門調査会ワークショップ提出資料）

3. 平成２６年度アクションプランレビュー
   1. レビューの進め方と対象となるアクションプラン
   2. 構成員からの助言
   3. 担当府省における助言への対応
   4. 助言のまとめ
      ～重要課題専門調査会への報告～

4. 第４期科学技術基本計画レビュー
   1. レビューの進め方と対象となる課題領域
   2. レビュー（分析）手法
   3. レビュー結果
   4. 経済団体との意見交換

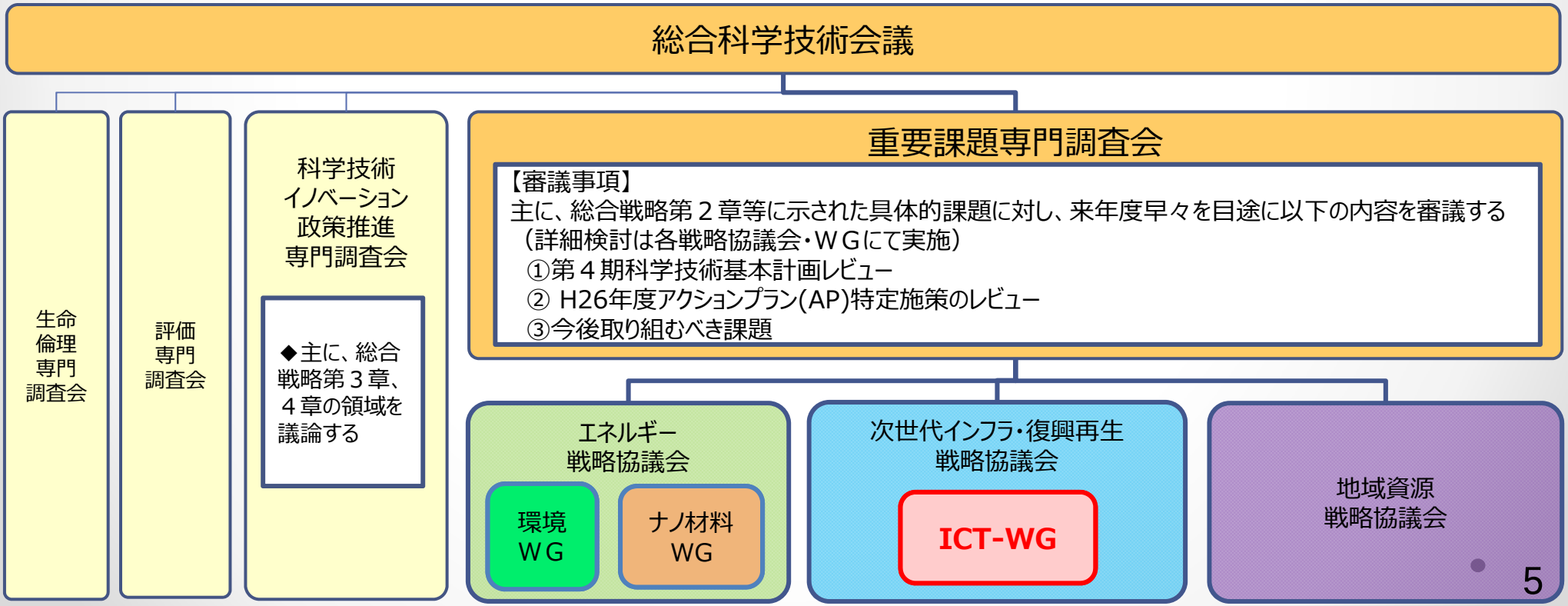
5. まとめ
   1. 平成２５年度総括
   2. 今後の検討方針

1. はじめに

１．１．　ＩＣＴ－ＷＧの設置と検討内容

１．１．１．ＩＣＴ－ＷＧの設置と検討内容

- ◆ 総合科学技術会議は、第４期科学技術基本計画で示された課題解決型の取組の強化を踏まえ、科学技術イノベーション総合戦略で示す重要な課題に対し、H26年度当初からの実施を実効性のあるものにするための体制強化として、重要課題専門調査会を決定した（平成25年9月13日）。
- ◆ 第一回重要課題専門調査会（平成25年10月11日）では、専門調査会での審議事項とともに、総合戦略第２章で提示された分野を踏まえた戦略協議会の設置と、戦略協議会の配下に各分野における専門性に鑑みたワーキンググループ（ＷＧ）の設置を決定した。
- ◆ これらの決定を受け、ＩＣＴ全般における審議事項の検討を進め、その結果を重要課題専門調査会に報告することをミッションとしたＩＣＴ－ＷＧを次世代インフラ戦略協議会の配下に設置した（平成25年11月26日）。



１．１．２．ＩＣＴ－ＷＧ構成員

相田　仁（座長）	東京大学大学院 工学系研究科 教授（重要課題専門調査会専門委員）
石川 正俊	東京大学大学院　情報理工学系研究科 教授
江崎　浩	東京大学大学院　情報理工学系研究科 教授
大須賀 美恵子	大阪工業大学　工学部　ロボット工学科　教授
川人 光男	株式会社国際電気通信基礎技術研究所　脳情報通信総合研究所　所長
佐々木　繁	株式会社富士通研究所 常務取締役
土井　美和子	株式会社東芝　研究開発センター　首席技監
西　直樹	日本電気株式会社　中央研究所　主席技術主幹
西村　正	東京工業大学大学院　理工学研究科　連携教授
丹羽　邦彦	大学共同利用機関法人　情報・システム研究機構シニア　リサーチアドミニストレーター
羽生　貴弘	東北大学 電気通信研究所 ブレインウェア実験施設 教授
水落　隆司	三菱電機株式会社　情報技術総合研究所光電波・通信技術部門　統轄
山田　澤明	株式会社野村総合研究所 常勤監査役
渡邊　久恆	株式会社EUVL基盤開発センター　代表取締役社長

（50音順）

１．１．３．ＩＣＴ－ＷＧ関係機関

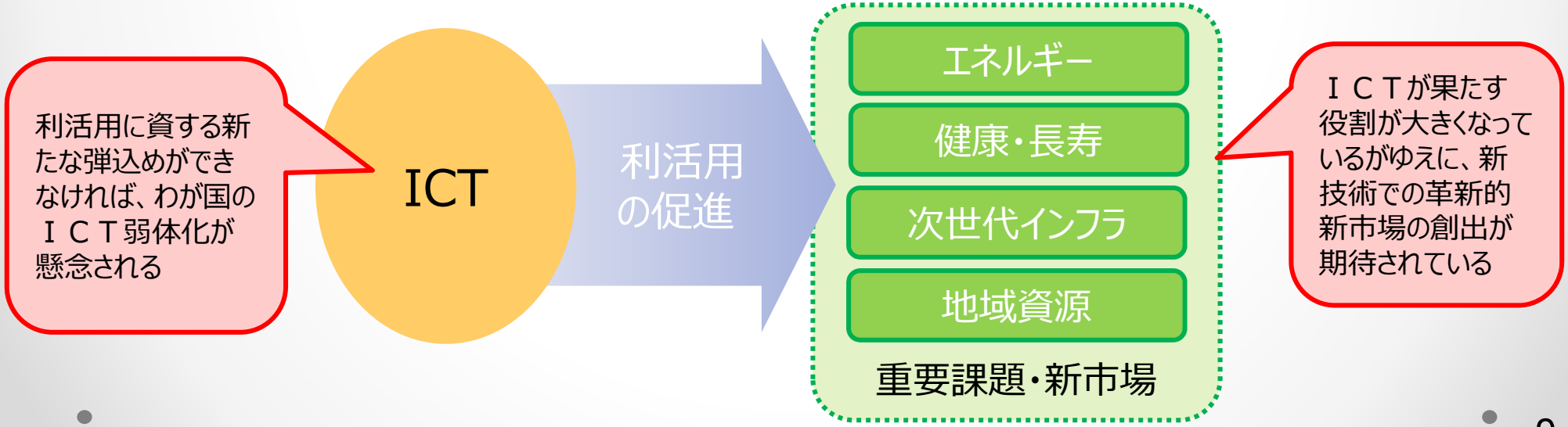
三角　育生	内閣官房 情報セキュリティセンター 参事官
田原　康生	総務省 情報通信国際戦略局 技術政策課 課長
荻原　直彦	総務省 情報通信国際戦略局 技術政策課 研究推進室 室長
松井　俊弘	総務省 情報通信国際戦略局 通信規格課 課長
赤阪　晋介	総務省 情報流通行政局 情報セキュリティ対策室 室長
仲田　忠司	消防庁 総務課 消防技術政策室 室長
下間　康行	文部科学省 研究振興局 参事官（情報担当）
中谷　誠	農林水産省　農林水産技術会議事務局研究統括官（食料戦略、除染）室　研究統括官
江口　純一	経済産業省 商務情報政策局 情報処理振興課 課長
宮崎　貴哉	経済産業省 商務情報政策局 情報通信機器課 デバイス産業戦略室 室長

１．２．　ＩＣＴ－ＷＧのねらい

１．２．１．昨今のＩＣＴ政策を踏まえた問題意識

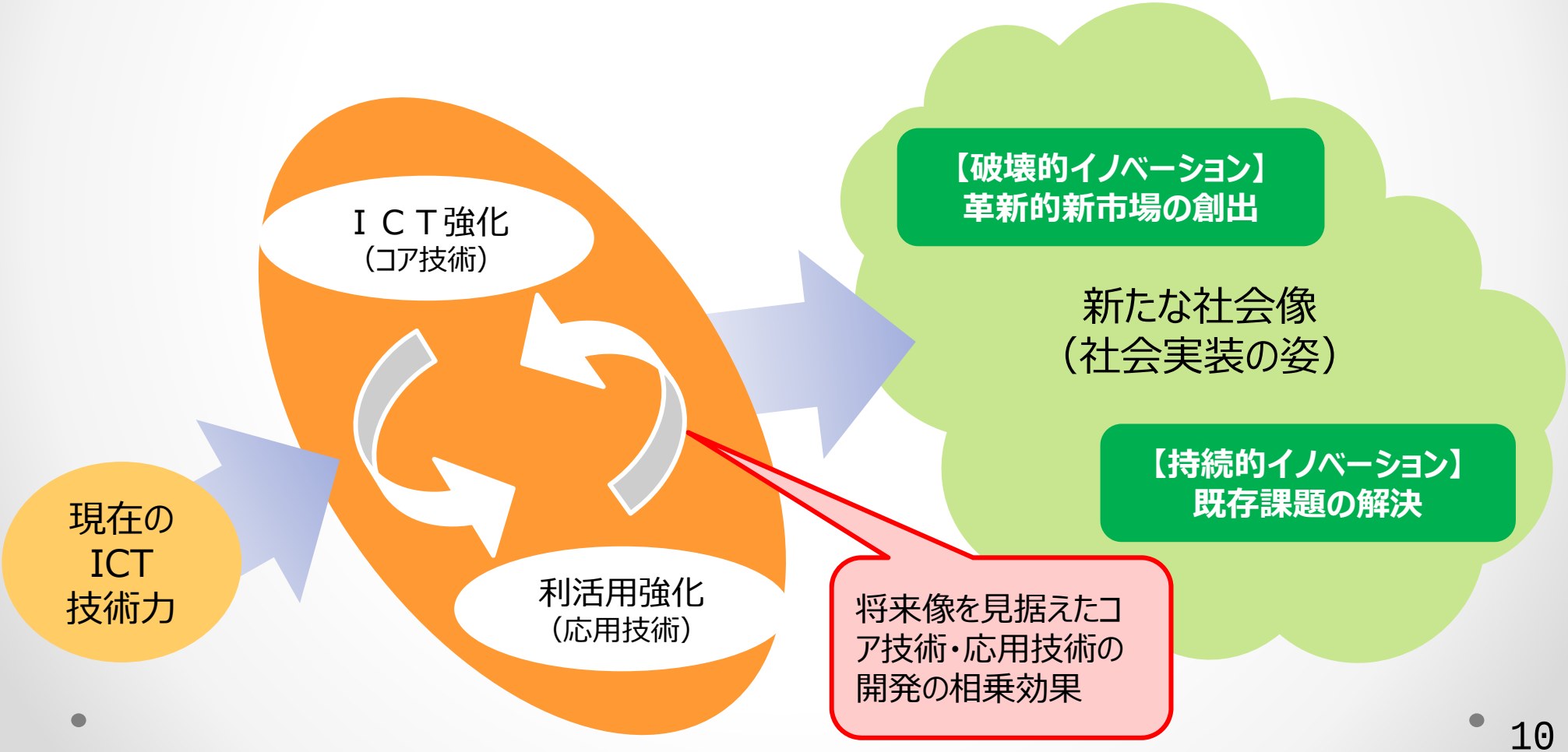
◆　ＩＣＴ政策については、第３期科学技術基本計画まではＩＣＴ技術そのものを課題としていたが、第４期科学技術基本計画では、ＩＣＴは共通基盤技術としての利活用を中心としたものとしている。

- 日本再興戦略（H25.6.14閣議決定）に基づき“世界最高水準のＩＴ利活用社会の実現”を目標としてわが国のＩＴ全般政策を具体化した「世界最先端ＩＴ国家創造宣言」が閣議決定された（H25.6.14）
- 中期計画である第４期科学技術基本計画では、ＩＣＴは重要課題を解決するための共通基盤技術として位置づけられている。
- 重要課題達成のためにＩＣＴの貢献度はますます大きくなっており、ＩＣＴ利活用の促進による革新的新市場の創出が期待される一方、利活用に資する新たな弾込めができなければわが国のＩＣＴ弱体化が懸念される。



１．２．２．ＩＣＴ－ＷＧのねらい

- ◆ ＩＣＴの利活用のみではなく、ＩＣＴの強化と利活用の強化の両面から技術開発の方向性を議論し、双方による相乗効果によって新たな社会像を創出していく。
- ◆ ＩＣＴ－ＷＧでは上記の新たな社会像を生み出すため、今後取り組むべき課題の検討を様々な観点・手法によってすすめ、出口戦略を重視したＩＣＴ政策について議論を行う。



１．２．３．ＩＣＴ－ＷＧの議論を進めるに当っての観点

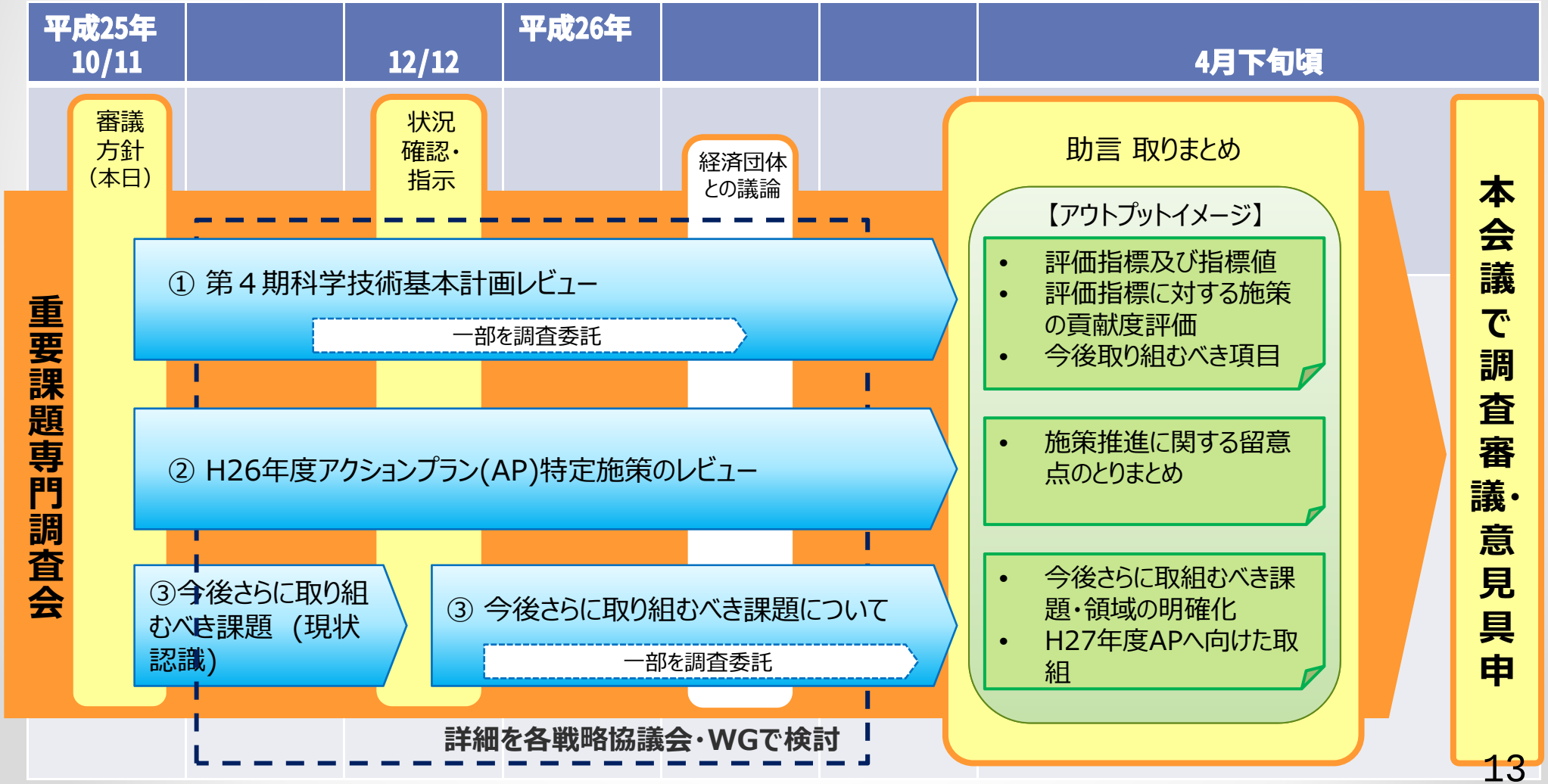
◆　ＩＣＴ－ＷＧのねらいを踏まえ、デバイスとアプリケーションを相互連携した議論を行っていく。

- ソフトウェア・アルゴリズムなど上位のレイヤーからのアプローチからのみではなく、より物理レベルに近いデバイスの視点からもシステム全体を見直すという観点から、新たなイノベーションの種の創出を図る
- さらに、情報機器をデバイス単体としてのスペックの視点に留まることなく、それらを用いたシステムとしての視点からレビューを行うことで、デバイスからアプリケーションまで一気通貫した議論を行う

１．３．　ＩＣＴ－ＷＧの進め方

1．3．1．重要課題専門調査会の審議方法について

- ◆ 重要課題専門調査会において４期基本計画及び科学技術イノベーション総合戦略に掲げられた当面取り組むべき重要な課題並びに今後さらに取り組むべき課題全体を扱う
- ◆ 評価指標などを用いた詳細な調査・検討を各戦略協議会・WGで行う



１．３．２．議論の進め方について

◆　まずＩＣＴ－ＷＧの問題意識を共有することを目的に、③今後さらに取り組むべき課題から議論を進めた

回数	予定日時	①４期計画レビュー	②H26APレビュー	③今後さらに取り組むべき課題
第１回	11/29金） 10:00-12:00	◆　レビューの進め方について	■　Ｈ２６ＡＰ状況説明（１）	●　構成員が注目する今後取り組むべき課題の紹介（１） ●　国民からの幅広い意見募集について
第２回	12/16月） 15:00-17:40	◆　調査委託進捗報告（レビュー例の説明）	■　構成員によるＨ２６ＡＰ推進に向けた助言の提示と議論（１） ■　Ｈ２６ＡＰ状況説明（２）	●　構成員が注目する今後取り組むべき課題の紹介（２）
第３回	1/17（金） 9:30-12:00	◆　調査委託中間報告 →会議後、議論結果を速やかに反映し、メールベースで共有	■　構成員によるＨ２６ＡＰ推進に向けた助言の提示と議論（２）	●　意見募集結果に対する議論
第４回	2/20（木） 15:00-17:30	◆　調査委託最終案報告と議論（経済団体との議論含む）	■　助言のとりまとめ	
第５回	3/14（金） 10:30-12:30	◆　Ｈ２５年度ＩＣＴ－ＷＧ検討結果・助言とりまとめ（案）に関する議論		

【参考】構成員への依頼

◆ ICT-WGにおいて活発かつ建設的な議論を進めるため、構成員に対し、それぞれの審議事項における担当分野において、以下の項目を依頼した。

① 第４期科学技術基本計画レビュー

◆ 評価指標および評価、今後の取り組みについてのコメント

➢ 評価指標や課題に対する評価、今後の取り組みについては事務局（調査会社への委託）により検討を進め、逐次ご報告いたします。ご担当分野の検討案について、**適切な指標が選ばれているか、評価内容が適切か等の観点からコメント**をお願いいたします。

② H26年度アクションプラン(AP)特定施策のレビュー

◆ 施策推進のための方策・留意点の検討

➢ とりまとめ構成員の先生におかれましては、第１回WGの議論状況等をふまえ、第２回もしくは第３回WG（1月中旬）において、１０分程度、**施策推進にあたってのキーポイント（注力する技術開発、補足すべき技術開発、整理すべき規制緩和等）について、ご担当構成員の助言をとりまとめ、ご提案（プレゼン）**をお願いいたします。

③ 今後取り組むべき課題

◆ 注目課題の整理と紹介

➢ **今後注目される課題（社会的課題、技術等）をご検討いただき、第１回もしくは第2回WGにおいて10分程度のご提案（プレゼン）**をお願いいたします。

【参考】関係各府省への依頼

◆ ICT-WGにおいて活発かつ建設的な議論を進めるため、関係各府省に対し、以下の項目を依頼した。

① 第４期科学技術基本計画レビュー

◆ 各省施策の追加質問対応等

➢ 内閣府にて評価指標の検討や、今後取り組むべき課題の検討等を行います。これらの検討にあたり、**各省施策への質問対応や、レビューのとりまとめにあたっての照会**を予定していますので、対応をお願いします。

② H26年度アクションプラン(AP)特定施策のレビュー

◆ ＡＰの概要説明と構成員との議論

➢ それぞれのテーマについて2回のＷＧに分けて議論を進めます。1回目のＷＧでは、各府省よりＡＰのプレゼンをいただき、構成員との質疑応答にご対応願います。プレゼンは、**出口戦略の明確化、施策推進にあたっての課題（現在困っていること等）に主眼を置いたプレゼン**をお願いします。

➢ 2回目のＷＧでは、1回目のＷＧを受け構成員より、施策をより効果的にするための助言をプレゼンいただきますので、**その内容について議論**願います。

③ 今後取り組むべき課題

◆ 注目課題の整理と紹介

➢ **各府省において検討している今後注目される課題（社会的課題、技術等）があれば、10分程度のプレゼン**をお願いいたします。